

# ようこそ

創刊号

浄土真宗本願寺派

円光寺

〒870-0108 大分市三佐133

TEL 097-527-6916

FAX 097-527-6949

## 創刊にあたって

住職 藤 並 晃 照

二〇〇二年を迎え、早くも二カ月が過ぎました。世の中はワイルドカップサッカー日韓共催で大いに沸き上がっています。

円光寺にとつては、住職継職法要厳修の大きな節目の年になります。このご縁に、お念仏の教えの原点に立ち返り、聞法の道場としての寺院機能を大いに発揮して「お念仏に満ちあふれる円光寺」になつていききたいと思ひます。

そこで、寺報発行を思い立ちました。開かれた寺・親しまれる寺づくりを日ざして、情報公開を進めていきます。

以前にも寺報を出したことがあります。毎月発行ということで三、四号と続きましたが、何度かそんなことを繰り返しては途中で挫折してしまいました。父が病に倒れ寺の法務に専念

するようになって、一九九八年一月より「円光寺通信」を毎月発行しています。寺行事の案内と報告を中心に、法話は書物から転載しています。とにかく毎月発行することを目標に、この三月で五十一号を数えます。さて、このたびの寺報は通信とは内容を異にし「人」を伝えていきたいと思ひます。「お念仏に生きる人」です。皆さんにお念仏を生活の中でもっと身近

に受けとつてほしいとの願いからです。そして人から人へとお念仏が伝わっていつてほしいと思ひます。

また、寺報については住職一人ではなく門信徒を交えた編集態勢をとつて、より広く親しまれる紙面づくりをめざします。

キーワードは「ようこそ」あなたと 南無阿弥陀仏」です。私たちの阿弥陀さまは撮取不捨（おさめとつてすてない）の仏さまです。南無阿弥陀仏のお名号となつていつでもどこにいても阿弥陀さまは私に付いて離れず一緒にいます。因幡（鳥取県）の足利源佐同行は阿弥陀さまのお慈悲を「ようこそ、ようこそ」と喜ばれました。「一人じやないよ。私がいるよ。大丈夫だよ」の阿弥陀さまのおはたらきをいただき、お浄土への人生を共に歩んでいきましょう。お念仏の生活をすすみましょう。



「ようこそ、円光寺へ」

晃照住職

## 世々生々

二〇〇二年、春三月。齢四十九である。人生五十年と云われたのはいつの頃だったか。今や人生八十年。七十歳で「あと十年」、八十歳は「ここまでできたら、キンさんギンさん」と言つてはばからない。しかし、「引き算したら、あと三十年」なんて呑気なことはとても思えない◆強く五十歳を意識する。戦後生まれの団塊の世代。日本復興の光と陰を見て育ち、学生運動の青春時代を過ごし、バブル絶頂期に企業戦士と頑張つて、今はリストラの大きなうねりの中にある、同期の桜だ◆学生時代の友人に会う。取り巻く厳しい状況を聞く。「大変だなあ」と思うが、実感が無い。「お寺はいいよな」と逆に言われる。そうかお寺は不況知らずと云うのか。門徒衆の大きな支えを今更ながら有り難く思う◆五十歳で人生の大きな岐路に立つ。こ

こは人生再スタートの時だ。「大丈夫だ！」 私たちにはお念仏のご法義がある。いつでもどこでも私に付いて離れず阿弥陀さまがいらつしやる◆桜は散つて大地に咲く。私のすべてを引き受けてくれる大地がある。大丈夫の阿弥陀さまを一緒に聴聞させていただきますように。南無阿弥陀仏………

(住職)

# サア、一緒にしましょう!!



このたびの住職継職法要は、三年前の一九九九年から計画されました。総代世話人会で発案し、同年九月より法要懇志の各地区門徒説明会をして、ほぼ話が決まった中で、一九九九年十一月一日に昭然前任職が亡くなりました。当初の予定通り同月二十八日、御正忌報恩講にあわせて住職退任法要をお勤めしました。それから二年余り、いよいよ三月三十・三十一日に「第十八世住職継職奉告法要」並びに「蓮如上人五百回遠忌法要」をお勤めさせていただきます。

## 十五年ぶりの大法要

稚児が出仕する法要は、前任職の代に三回行っています。昭和三十七年の「第十七世住職継職法要」昭和五十二年の「本堂新築落慶法要」そして昭和六十

二年の「山門鐘楼改築落慶法要」です。このたびの法要は、十五年ぶりの大法要になります。

## お念仏のバトンタッチ

さて、住職継職とは、単に住職が代わるということではありません。お念仏の法灯(教え)を継承するという大きな意味があります。「お経をあげてもらえさえすれば何宗でも構わない」と、寺は住職(僧侶)は期待されず、中心である信仰(信心)ということが置き去りにされています。本来の寺とは何か。住職の役割が再認識されます。住職継職を機縁に、私たちのご法義、お念仏の教えの原点に立ち返り、お念仏を子や孫に次の世代にバトンタッチしていこうとの大きな決意の法要です。

## 門徒みんなの法要

円光寺らしい特色のある法要、手作りの法要をめざします。実行委員会を組織してより多くのご門徒の皆さんに法要に関わっていただきます。

仏社会員を中心に雅楽会ができました。法要では門徒衆による雅楽の荘厳な演奏が色を添えてくれます。

## 古式豊かに稚児行列を

法要第一日目の三月三十日は、稚児唄舎を清松朝幸さん(仲町)にお願いして、「唄舎法要」のあと雅楽隊の先導で稚児行列を古式ゆかしく行います。九十名の可愛いお稚児さんと関係者でにぎやかな行列になります。



昭和52年法要 稚児行列 (山門前)

## 花まつり白象パレード

二日目の三十一日には、本堂で「仏の子どもの集い」を開きます。円光寺仏教子ども会(水



昔の子ども達も生まれ!! (昭和59年当時)

曜学校)も昭和五十三年の開設以来多くの子ども達との出会いがありました。そうした昔の子ども達、そして今の子ども達、お稚児さんと一緒にお勤めをさせていただきます。その後「花まつり白象パレード」を行います。お釈迦さまのお誕生をお祝いする行事です。橋本利男さん(大村)が精根込めて作ってくださった白象を皆なで引っ張りま

## 花いっぱい法要に

二日間の稚児行列を飾ってくれるのが、ご門徒さんにご協力していただく華やかなお花の歓待です。法要めがけて皆さんが育て持ち寄ってくれた色とりどりのお花が道中を寺内を飾ってくれます。



わが青春の「ステイツ・ナイン」  
前左2番目が講師 後左2番目が住職 (昭和50年)

### 声に出して お念仏申しましょう

法要の経段(お経)は正信偈です。前任職が仏事の度にお経本を持参しては正信偈のお勤めを皆さんと一緒にしていましたが、大きな声でお正信偈のお勤めをいたしましょう。そして、声に出してお念仏を申しましょう。寺の外までお念仏の音が響きわたるにぎやかな感動的な法要にしていきましょう。

### 講師の紹介

ご講師は深川宣暢師。京都の龍谷大学教授で山口・西念寺住職です。住職の龍大時代の同期で共に学び「ステイツ・ナイン」という草野球チームで一緒に遊びました。



昭和62年法要  
導師をつとめる昭然前任職

このたびの法要にご講師からメッセージをいただきました。

このたび新しい住職が継職され、蓮如上人の遠忌法要がつとめられますことをお慶び申し上げます。この法要の意義は小さくありません。

十八代にわたって承け伝えられたお念仏のご法義を力強くお継ぎになる新ご住職はいよいよ充実しておられ、頼もしくもありほほえましくもあります。今は亡き前任職様のご苦勞も、決して忘れてはならないでしょう。

新たなご住職に仕えられる方々、ご教化をお受けになれる皆さまに、お祝いを申し上げます。大丈夫です。新任職もやりますよ。

### 記念事業

最後になりましたが、ご門徒の皆様にはこのたびの法要にあたたかいご懇念をお運びいただき、誠に有り難うございました。おかげさまで予算額以上のご懇念をいただき、

記念事業として

- 本堂内陣の修復(親鸞聖人厨子礼盤・金燈籠並びにお巻障子修復、丸柱金箔塗り等)
  - 門徒台所の新築
- をさせていただきます。

### 記念の式章を着けて

さあ、法要本番まであと一カ月です。本堂・庫裡・境内と出来る限りの化粧直しをして、希

有の仏縁をむかえます。ご門徒の皆様には記念品としてお配りした門徒式章(色違い2本)を着けてお参りください。祝宴の準備もしています。新任職を囲んでこのたびの慶事を一緒に祝いましょう。



法要記念の門徒式章

### 法要プログラム

#### 第一日目/3月30日(土)

- 6:30 晨朝勤行
- 9:00 幄舎法要 [清松朝幸様宅]
- 9:40 稚児行列 ※清松宅→円光寺
- 10:30 記念撮影 (法中、親族)
- 11:00 『第十八世住職継職奉告法要』
- 12:00 式典(達書伝達式)
  - (1)本山「住職許状」・祝辞伝達
  - (2)大分教区教務所長祝辞
  - (3)大海組長祝辞
  - (4)記念品贈呈
  - (5)新任職就任挨拶
- 12:20 記念法話(深川宣暢師)
- 13:00 門徒祝宴(1区、4区、家島、大分)
- 14:00 終了

#### 第二日目/3月31日(日)

- 6:30 晨朝勤行
- 8:30 記念撮影(稚児)
- 9:00 仏の子どもの集い
  - 勤行「らいはいのうた」、法話
- 9:40 花まつり白象パレード(稚児行列)
  - ※3隊編成で、円光寺→円光寺
- 11:00 『蓮如上人五百回遠忌法要』
- 12:10 新任職就任挨拶
- 12:20 記念法話(深川宣暢師)
- 13:00 門徒祝宴(2区、3区、鶴崎、別府)
- 14:00 終了

お浄土への人生

シリーズ

『同行さん』

①お朝事の会

円光寺では六時半からお朝事(晨朝勤行)をお勤めしています。本堂新築なった昭和五十二年(一九七七年)に昭然前住職が門徒衆に呼びかけて始めました。以来数多くの方々が朝事のご縁をいただきました。もうすでにお浄土に帰られた方も多くいます。現在は岸田シズエさん(裏町)、清松勝子さん(仲町)、三浦フミエさん(海原)、山村玉枝さん(海原)、南淵信子さん(鶴崎)が常朝事のお同行です。そのほか、週末の土・日曜日には岩崎俊孝さん(大村)、上野秀男さん(大村)、三浦利文さん(新港)がお参りされてお勤め、御文章拝読、



毎朝3分法話を致します(住職)

が御参りされてお勤め、御文章拝読、

法話聴聞いたします。そして、納骨堂(讚仏偈)・お内仏(重誓偈)でお勤めをして七時過ぎには終わります。昨年からは、第二日曜日に「お朝事の会」を開いています。本堂でお正信偈のあと阿弥陀経を誦読、ラジオ放送「西本願寺の時間」(法話)を聞きます。そして、納骨堂・お内仏のお勤めの後、皆さんで朝食をいただきます。漬物などを持ち寄り、和気あいあいの中でさわやかな朝の時間を一緒に過ごします。

人生は、誕生に始まり、入学、卒業、就職、結婚などの節目があります。人が生まれて生きるということ、それは、それこそ不思議なことです。自分一人で生きていくように思いますが、喜びの浄財『よろこび金庫』を設けて、人生の節目節目に会い得た喜びをどうぞお寄せください。ここに『よろこび金庫』を設けています。

喜びの浄財 『よろこび金庫』

人生は、誕生に始まり、入学、卒業、就職、結婚などの節目があります。人が生まれて生きるということ、それは、それこそ不思議なことです。自分一人で生きていくように思いますが、喜びの浄財『よろこび金庫』を設けて、人生の節目節目に会い得た喜びをどうぞお寄せください。ここに『よろこび金庫』を設けています。



坊守手せいの朝食を頂きます

朝一番に大きな声を出して、お念仏とともに今日一日を始めましょう。毎日とはいいません。ご先祖有縁の仏さまの命日とか、お参りの日を決めて、あなたもお朝事にお参りされませんか。

あとがき

円光寺寺報『ようこそ』創刊号をお届けします。A四判四頁の紙面で、一年三回発行の予定です。編集委員を中心に、広くご門徒有縁の皆さんに愛される寺報作りにつとめていきます。この寺報がお寺とあなたをつなぐかけ橋になってほしいと思います。「ようこそ あなたと南無阿弥陀仏」です。

編集委員

岩崎俊孝さん(大村)、上野秀男さん(大村)、田仲進さん(出町) 幸野京子さん(新町)、岸田尚子さん(海原)の五人衆です。五十代六十代の、これから住職・坊守と共に御寺のお手伝いをしていただきたいと思います。よろしくお参りいたします。



常朝事のメンバー(敬称略) (後方) 山村、南淵、前坊守 (前方) 岸田、住職、清松、三浦